

# 事業報告書

1 支援団体名	特定非営利活動法人 九州流域連携会議
2 事業名称	第10回九州「川」のワークショップ in 宮崎
3 実施日時	平成22年11月13～14日
4 実施場所	カルチャープラザ延岡
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業概要状況・内容) *できるだけ詳細に</p> <p>[目的] 九州の水環境を守り、育み、創るため九州各地の流域で活動する市民・団体や行政が一同に会し各々の活動や取組みの発表を通し意見や情報を交換・交流することで「いい川」とは「いい川づくり」とは何かを探りよりよい水環境を育むとともに水防災意識の向上を検討する。</p> <p>[内容][実施方法] &lt;11月13日(土曜日)&gt; 12:00 受付～13:00 開会式 オープニング 大武權伝馬踊り 旧東海村 開会宣言 実行委員長 土井裕子 挨拶 大会会長 駄田井正 宮崎県土整備部長 児玉宏紀 延岡市長 首藤正治</p> <p>○ステージ発表(大人の部・学生の部・子どもの部共通) ・1団体の発表時間は1団体につき3分、2分の質疑応答 8団体で1グループとし、コーディネーターは1グループに2人(行政・民間)で、発表及び質疑の進行 ・発表は、団体の活動や発表内容をまとめたパネルを事前に作成し、ステージに掲示して行った。 ・3分以内の自由発表で、色々工夫が凝らされ、複数での発表が多かった。 ・OHP、スライド、液晶プロジェクターを使った画像は、川や活動風景の写真3枚以内</p> <p>○パネル発表(大人の部・学生の部・子どもの部共通) ・発表団体をグループごとに15分間、発表用に作成したパネルを使って屋台方式で発表し参加者は、ステージ発表に興味を持った団体の所に行き、発表者と活発な意見交換が行なわれた。</p> <p>&lt;11月14日(日曜日)&gt; ○ステージ発表(学生の部) ○パネル発表(大人の部・学生の部) ○水環境活動への提案(防災と自立) ・近年の異常降雨や出水に対する防災意識の啓発や防災体制づくりに関するNPO が果たす役割と日常生活の中でNPOがどのようにして自立していくかを提案。 提案者:レスキューサポート九州代表:木ノ下勝矢 水の旅人代表:長野正孝 ○全体討論会 ・水環境活動への提案と今回のワークショップを通して見いだされた活動や事業のキーワードを探り、これからの九州における豊かな自然と人間が共存していくための取組みなどを会場全体で論議した。</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>[結果] 発表団体は韓国からの発表 2 団体(総勢 19 名程)、広松伝賞受賞招待団体の発表も含めて 47 団体の参加となり、開催以来 2 番目に多い参加となった。参加者数は二日間延約 560 名程。九州 20 河川の流域で活動する団体、関心のある個人、学識者、河川行政に携わる行政関係者が一同に会し情報交換交流する年一回の唯一の機会となっている。 例年九州 7 県を持ち回りし 2 巡目以降は現地実行委員会を中心に開催地の主体性と特徴を出せるように工夫し実施してきた。これまでも長崎県、佐賀県などで開催をきっかけに活動団体のネットワーク化が推進されてきている。 今回は「がんばろう宮崎」をサブテーマに、水防災の先進地ということもあり水防災の取組発表や NPO の自立への提言を行ったり、河川団体連携による防災ネットワークの構築推進を議論できた。 また、現地子ども団体の参加も多く賑やかで明るい声とはきはきとした発表には勇気と元気をもらった。勿論現地エキスカッションは五ヶ瀬川流域の水防、治水施設を巡り地元の方の歴史話や河川と暮らしの話等を聞くことができた。 運営進行は九州各県の関心を持つ学生 20 名ほどを中心に準備から当日二日全てを学生が主体となり推進運営し、河川への関心をさらに高め人材育成にもその役割を果たしてきた。</p>
6 参加内訳	総人数(総人数) 290～270名(国土交通省・宮崎県・宮崎市 延岡市関係者除く延人数:560名) 国土交通省・宮崎県関係者参加 2 日間延べ人数:60名 関り方:実行委員会及びコーディネーター 一般参加
	(1)主催者参加 事務局スタッフ:4名、学生スタッフ 21名
	(2)日本人参加((1)を除く) 235名(2日間の延べ人数:470名)
	(3)外国人参加((1)を除く) (外国人参加)延べ 58人(韓国から) 他通訳 4名
7 今後の方針	<p>2 巡目となる九州「川」のワークショップだが、これまでの発表中心のワークショップから、現地実行委員会で「頑張ろう!宮崎」を地域テーマに行なうことによって地域の主体性と新たなワークショップが見えてきた。 水防災の先進地宮崎ということもあり水防災への取り組みや河川団体連携による防災ネットワークなど単に環境や人材育成のみならず地域防災にも視点をあてた発表が特徴的であった。 また、地域イベントとの同時開催や物産展の開催を検討するなど経費の抑制や効率化、一般参加者も気軽に参加できるような工夫や参加団体の参加のしやすさを検討する。</p>

子どもの部ポスター発表



大人の部ポスター発表



子どもの部表彰式



ポスターセッション



広松伝賞受賞団体発表



韓国の水環境活動発表



全体討議・会場風景



会場風景

